

# 平成 30 年度継続課題に係る継続評価書

- 研究機関 : 富士通(株)、北陸先端科学技術大学院大学、SMK(株)
- 研究開発課題 : IoT 共通基盤技術の確立・実証  
課題Ⅱ 効率的かつ安定的な IoT デバイス接続・エリアネットワーク運用管理技術の確立
- 研究開発期間 : 平成 28 ～ 30 年度
- 代表研究責任者 : 高橋 英一郎

■ 総合評価 : 適

(評価点 17 点 / 25 点中)

## (総論)

着実に研究開発を進めていることは評価できる。標準化については、デファクトスタンダード陣営の動きも早いため、標準化の潮流に注意を払いながら標準化とビジネス化のバランスを取っていくことが望ましい。

更にビジネスプロデューサーがより前面に立ち、外部の力も借りつつ参画技術者自ら強みや弱みを公平に分析することが望ましい。

## (コメント)

- 標準化においてはデファクトの動きも早いので、注意を払いながら標準化とビジネス化のバランスを取られると良い。
- しっかり、着実に研究開発を進めていることは評価できるが、ビジネスプロデューサーの存在が見えない。
- ビジネスプロデューサーがより前面に立ち、外部の力も借りながら、参画技術者自ら強みや弱みなどを公平に分析することが望ましい。国の研究開発をきっかけにこのような深い検討も開始できると良い。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム  
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 4

(総論)

国際標準化活動については、ITU-T Y.2070 関連や WoT について寄与文書を提出しており、積極的に標準化活動を行っている点について、その貢献度は大きく、更に標準化のプレゼンスを示せると良い。

標準化と共にプラグフェストの開催により相互接続性をテストする等、エコシステムの拡大についても努力をしている点が評価できる。

(コメント)

- 国際標準化活動や、かなり大規模な実証実験を進めている点を評価。
- ITU-T Y.2070、WoT のドラフトを提出し、標準化を着実に進めている。
- プラグフェストを開催し相互接続性をテストする等、積極的に標準化やエコシステムを拡大する努力をしている。
- 標準化への貢献は大きい。標準化単独であっても、プレゼンスを示せると良い。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

特段の問題点はなく、適切な予算執行がなされており、妥当と判断する。

(コメント)

- 特段の問題点は見受けられない。

### (3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価 4

#### (総論)

進捗状況を踏まえた年次目標の設定・見直しが行われており、実施計画の達成見込みは十分にあると判断できる。

加えて、急速に発展する市場に対するバランスを取りつつ、研究開発を強力に推進する必要がある、特に標準化については強力に進めてほしい。

#### (コメント)

- 進捗状況を踏まえて年次目標の見直しが行われている。
- 急速に発展する市場に対するバランスを取りながら強力に推進する必要がある。
- 標準化については強力に進めてほしい。
- 示された計画案については、達成できる見込みがあると判断できる。

### (4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価 3

#### (総論)

平成 29 年度実績及び平成 30 年度実施計画に基づいた妥当な予算計画となっている。

#### (コメント)

- 特段問題は認められず、実施及び計画に基づいた妥当な予算計画である。

## (5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価 3

### (総論)

研究開発の実施体制は着実なものとなっているものの、成果展開の面においては、ビジネスプロデューサー体制の強化を行い、急速に発展する市場への対応が望まれる。

### (コメント)

- 着実な体制となっている。
- ビジネスプロデューサー体制の強化を行い、急速に発展する市場への対応が必要。